

週刊 **タバコの正体**

和工では、一生タバコは吸わないつもりの方が大多数です。だから君たちが成人し、やがて結婚して子供ができて大切な我が子にタバコの副流煙を吸わせる事はないでしょう。



でも、残念ながら世の中を見渡すと、左の写真のような家庭は少なくありません。両親とも喫煙者という場合は少ないかも知れませんが、父親がタバコを吸う家庭は多いと思います。

平成22年度の厚生労働省の調査によると、30歳～60歳の男性の喫煙率は約40%です。という事は子供がいそうな家庭の半分近くが、こんな状況になっているかも知れないのです。

君たちのようにタバコの害を知っている人が、こんな写真を見れば、「信じられへん」とか「ありえへん」と感じると思います。ところが、大人の嗜好品としてタバコが世の中に広く浸透した歴史を振り返ると、家の中で大人がタバコを吸う光景は、ごく普通だったのです。

例えば、君たちのお父さんお母さんが子供だった40年前(1970年代)の成人男性の喫煙率は80%近くもあったので、その頃の家庭は、ほぼどこでもタバコの煙が立ち込めていたという事になります。だから、君たちのお父さんお母さんにとっては、「家で大人がタバコを吸う事」は普通の景色だったのです。そんな環境の中で育ったわけですから、自分が親になって自分の家でタバコを吸うのは、当然の成り行きなのかも知れません。

では、君たちの話をしましょう。40年前ほどではなくても、大人がタバコを吸う姿を見ながら育ってきた人は、まだまだ多いでしょう。だから、君たちと同世代の人の中には、大人になり親になって自分の子の前でタバコを吸うようになる人もいます。そうすると、またその子供が大人になって、自分の子供の前でタバコを吸うかも知れませんよね。

タバコが人の寿命を縮めるのは明らかな事実です。だから、誰もが吸わないような社会にしていくべきだと思いませんか。そのためには世代を超えたタバコの連鎖を、どこかで断ち切る必要があります。

その役割を担うのは、他ならぬこれから大人になる君たちなのです。

産業デザイン科 奥田 恭久